# 「宿題終わった？」

# 町と子どもの伸びる夏

東京経済大学　おさかな研究室

1．対象地域

2．課題から考える「ふっこう」

3．プラン提案

4．プランの効果と実用性

5．まとめ

# 対象地域

# 福島県
# 楢葉町 ＆ 広野町

Jヴィレッジ　https://j-village.jp/stadium/　ふるさとチョイス「木戸川漁協　楢葉町産鮭」　https://www.furusato-tax.jp/product/detail/07542/4654809

うつくしま浜街道「みかんの丘」　https://fukushima-hamakaido.com/article/189/?category=view　　ニツ沼総合公園　https://yumesoso.jp/yutadosa/archives/23014.html

# 課題から考える
# 「ふっこう」

# ー　東日本大震災　ー

2011/3/11

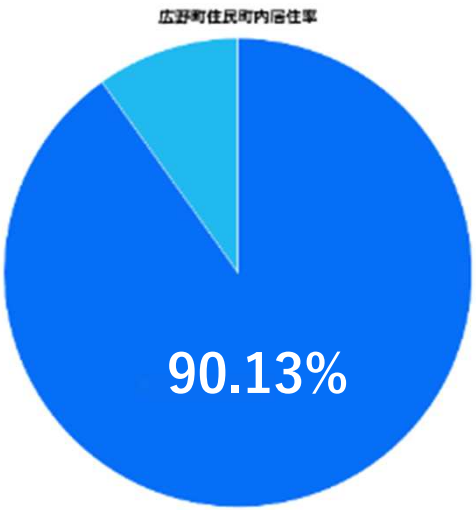
## ２つの町が経験したこと

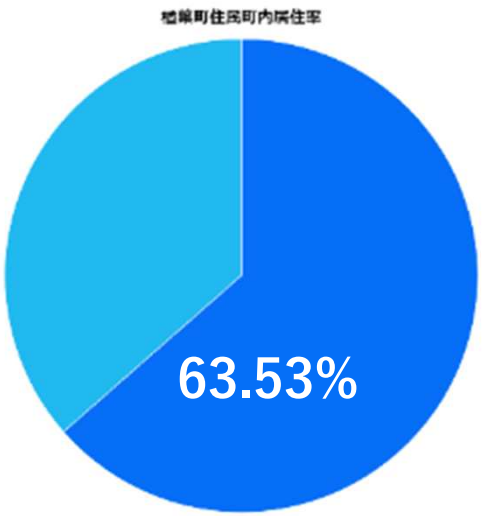
| | 広野町 | 楢葉町 |
|---|---|---|
| 主な影響 | 地震／津波被害 | |
| | 原発事故による全住民の避難 | |
| 住宅被害数 | 3997棟 | 1654棟 |
| 避難指示解除日 | 2012年3月31日 | 2015年9月5日 |

2022年5月12日　福島県「平成23年東北地方太平洋沖地震による被害状況即報」　https://www.pref.fukushima.lg.jp/uploaded/life/620025_1725169_misc.pdf
2015年3月11日福島県広野町「東日本大震災の記録Ⅰ」　http://fukushima-dokodemo-ebooks.com/acti_books/hirono_shinsainokiroku1/HTML5/sd.html#/page/56

# 震災から11年経って

## 住民の町内居住率



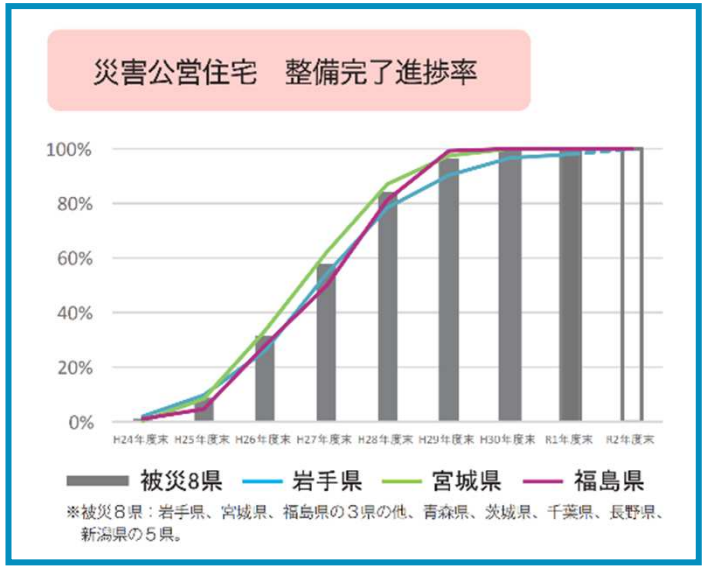




**町の人は戻ってきている**

楢葉町内居住者集計表（令和4年５月31日現在）　https://www.town.naraha.lg.jp/admin/cat337/006099.html
広報ひろの6月号　https://www.town.hirono.fukushima.jp/_res/projects/default_project/_page_/001/003/835/610-all.pdf

# 震災から11年経って

## 住宅などの整備は完了し、新しいまちづくりが進んでいる



2020年9月　復興庁「東日本大震災からの復興の状況と取組」　https://www.reconstruction.go.jp/10year/documents/202009_Pamphlet_fukko-jokyo-torikumi.pdf
一般社団法人　新エネルギー導入促進協議会「楢葉町スマートコミュニティ構築事業」　https://www.nepc.or.jp/topics/2021/0326.html

# 今の福島はどこに向かっている？

ハード面の復旧はほぼ完了

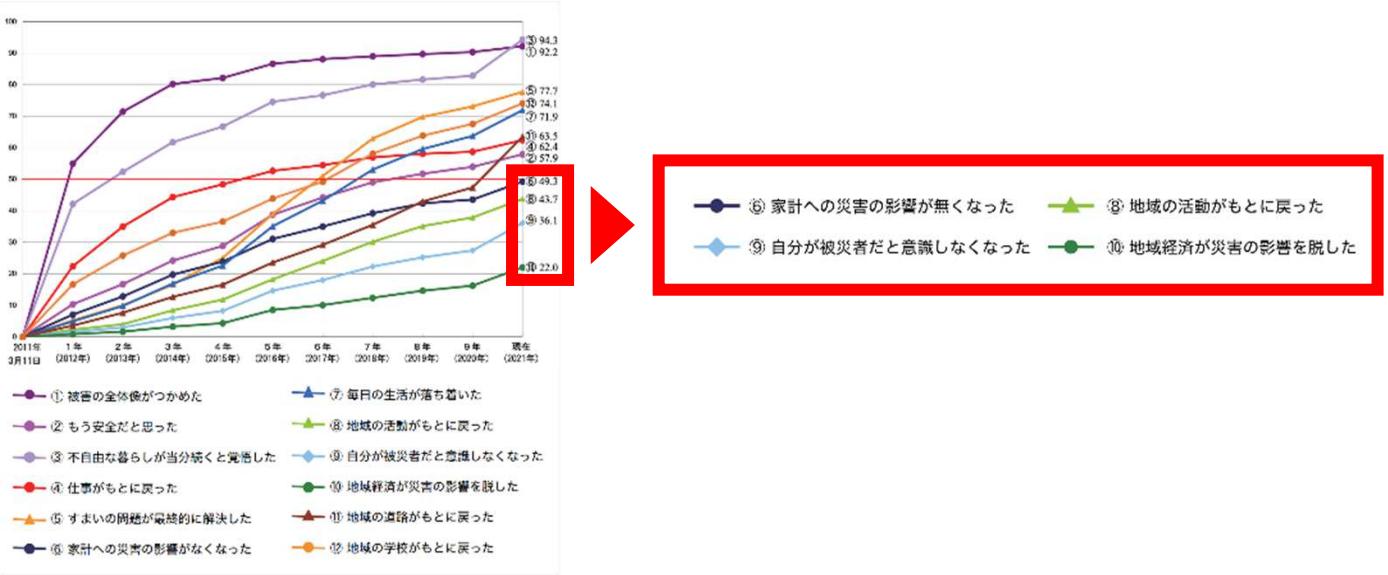
▼

震災からの復旧　　新しいまちづくり

# これからの課題

土地や建物の復興が進む一方で、その上に成り立つ

経済活動や地域活動はまだ復興を感じられない人が多くいる




NHK　「東日本大震災10年 被災地の声 被災者アンケート」 p.35「震災後の自分の気持ちや暮らしについて、復旧・復興を実感できたのはいつの時点か。」
https://www3.nhk.or.jp/news/special/shinsai-portal/10/questionnaire/pdf/shinsai10_questionnaire.pdf

福島で生活する人たちは

実際にどのように考えているのだろう？

# フィールドワーク調査結果

**福島県庁　観光交流局**　にて取材を行いました

「福島県としてはホープツーリズムを推し進めている。福島の復興の姿を見てもらうツアーは学びにもなるし、震災の風化をさせない。原発事故や津波の被害を後世につたえることになる。」

「会津地方の歴史や自然が見直されて、教育旅行として人気が高い。修学旅行などの教育旅行は県の重要な収入源のひとつ。」

「広島や長崎みたいな観光資産として見に来てもらって、浜通りでおいしいものを食べて楽しむことで勉強にも観光にもなる。」

福島県観光交流局　局長　市村様

# フィールドワーク調査結果

**まちづくり会社** や **住民の方** にも取材を行いました

「県が主導するホープツーリズムとしての旅行商品はそれぞれの町に
お金が落ちにくいため、現状では利益の還元がうまくなされない」

一般社団法人ならはみらい　移住促進係　森様

「いろいろな方が一つ一つ頑張って達成していっているものを
復興の２文字で片づけるのは何か違うと思う」

居酒屋「元気百倍」オーナー / 広野町商工会理事　　鈴木様

## 問題認識

# 福島県と町で、教育旅行への感じ方が違っていた

# 課題①

町や個人単位で

経済的利益が還元される仕組みが必要

# フィールドワーク調査結果

**多種多様な方** に「自分が思う復興」とは何か、質問しました

**in 広野町**
復興は終わっている
ぷらっとあっと
磯辺様

**in 広野町**
暮らす人の話題が何かにつけて震災にならないこと
ぷらっとあっと
青木様

**in 広野町**
もう終わってるからよくない？
新妻有機農園
新妻様

**in 福島県**
県外の人が福島をいいねと言うこと
福島県観光交流局長
市村様

**in 広野町**
元々住んでいた人が戻ること
きづな食堂の
お姉さん

**in 楢葉町**
地方創生だと思う逆に、何だと思う?
ならはみらい
森様

**in 広野町**
広野が住みやすいと感じる人が増えること
居酒屋元気百倍
鈴木様

**in 広野町**
広野の自然を観光する人が増えること
居酒屋元気百倍
鈴木様

**in 福島県**
「復興計画」から「振興計画」に変わること
福島大学地域未来デザインセンター
仲井様

**in 広野町**
いい意味で震災を忘れられること
広野町役場
根本様

# 問題認識

ある程度復旧した町だからこそ、

「復興」に対して

「もう終わった」と考える方もいれば、「もう少し」と考える方もいた

▼

「復興」のゴールが曖昧になっていることで、

将来、町全体で同じ方向を向けないのではないか

# 課題②

なぜ「復興」のゴールが曖昧になっているのか

「復興」という1つの言葉でひとくくりにされているため、

人それぞれ考え方に大きな違いがあるのでは？

**町で一体となるために**

**新しい「ふっこう」の形を考えることが必要**

新しい「ふっこう」の形とは？

# 福　興

# 伸びること

新しい「ふっこう」の形とは？

# 伸びる

“人の視点”

町の持つ魅力に
自ら興味を持って関わり、
学びを得ること

“町の視点”

「復旧」を飛び越え、
町が伸びしろを
際限なく広げること

重要

## 私たちがこのプランでやるべきこと

- 従来の「教育旅行」では難しかった、町や個人単位への利益還元
- 「伸びる」という、新たな意味を持った「ふっこう」の実現

**楢葉と広野を教育旅行によって「福興」に導く**

東日本大震災による全町避難指示

▼

浜通りの人たちは震災後、「選択」して故郷に住むことを決めた

# 観光する人が世界中の町の中から

# 広野町、楢葉町を「選択」して来訪するプラン

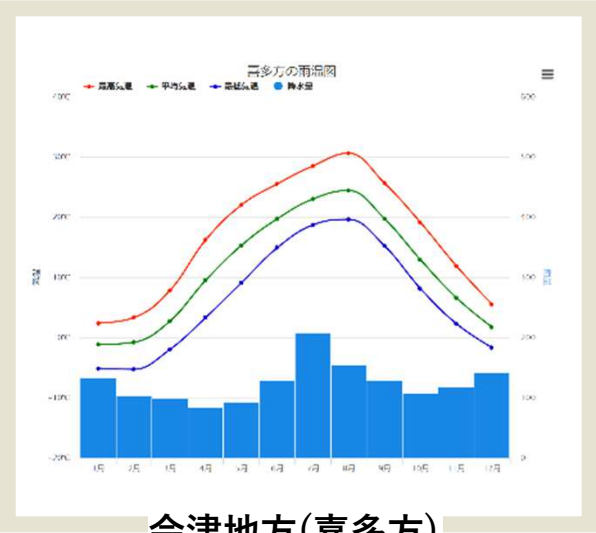
# プラン提案

提案内容

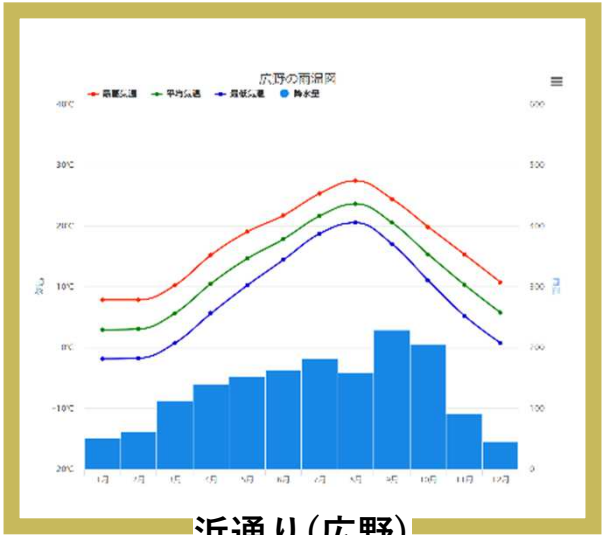
# 「夏の自由研究」を観光の目的に

# なぜ夏か

## 浜通りの特徴的な気候




会津地方(喜多方)




浜通り(広野)

**「やませ」による「夏でも冷涼な気候」をアピール**

Time-j-net　「各地の気温と降水量のグラフ（雨温図）」福島県喜多方/福島県広野　https://weather.time-j.net/Climate

ターゲット

# 小学4年生の子どもがいる家庭

# ターゲット

## 子どもの自主学習への意欲上昇

Q この1年くらいの間に、あなたは次のようなことを経験しましたか。(複数回答)　回答：子ども

図3-3-1 子どもの体験

(%)

| | 小4～6生 | | | 中学生 | | | 高校生 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 2019 | 2021 | 差 (2021-2019) | 2019 | 2021 | 差 (2021-2019) | 2019 | 2021 | 差 (2021-2019) |
| 家族で旅行をする | 78.5 | 49.1 | (29.4) | 68.4 | 37.5 | (30.9) | 53.7 | 25.1 | (28.6) |
| 外国に行く | 9.3 | 1.2 | (8.1) | 9.2 | 1.1 | (8.1) | 14.4 | 0.6 | (13.8) |
| 自然の中で思いっきり遊ぶ | 59.3 | 54.5 | (4.8) | 38.8 | 35.7 | (3.1) | 26.8 | 23.9 | (2.9) |
| 美術館や博物館に行く | 40.7 | 22.9 | (17.8) | 28.6 | 15.9 | (12.7) | 22.5 | 11.5 | (11.0) |
| 家で季節の行事をする(クリスマスや節分など) | 83.7 | 81.2 | (2.5) | 75.0 | 71.6 | (3.4) | 61.6 | 60.5 | (1.1) |
| スポーツ観戦に行く | 31.8 | 13.6 | (18.2) | 30.2 | 12.8 | (17.4) | 27.9 | 11.6 | (16.3) |
| 地域の行事に参加する(夏祭りなど) | 80.3 | 29.5 | (50.8) | 62.4 | 14.6 | (47.8) | 38.4 | 6.8 | (31.6) |
| ボランティア活動に参加する | 17.4 | 8.4 | (9.0) | 20.2 | 10.8 | (9.4) | 19.3 | 9.3 | (10.0) |
| 小さい子どもの世話をする(近所の子どもも含む) | 47.6 | 40.9 | (6.7) | 33.3 | 24.4 | (8.9) | 25.6 | 16.2 | (9.4) |
| お年寄りの世話をする(手伝いや介護など) | 18.1 | 10.8 | (7.3) | 14.0 | 10.0 | (4.0) | 13.7 | 8.0 | (5.7) |
| 親から仕事の楽しさや大変さを聞く | 45.5 | 39.6 | (5.9) | 34.8 | 34.4 | (0.4) | 32.8 | 33.7 | 0.9 |
| 自分の進路(将来)について深く考える | 27.7 | 24.6 | (3.1) | 39.6 | 42.8 | 3.2 | 63.1 | 68.2 | 5.1 |
| 疑問に思ったことを自分で深く調べる | 23.5 | 28.8 | 5.3 | 21.9 | 30.4 | 8.5 | 23.9 | 33.8 | 9.9 |
| 無理だと思うようなことに挑戦する | 33.5 | 26.7 | (6.8) | 22.6 | 22.0 | (0.6) | 17.4 | 17.1 | (0.3) |

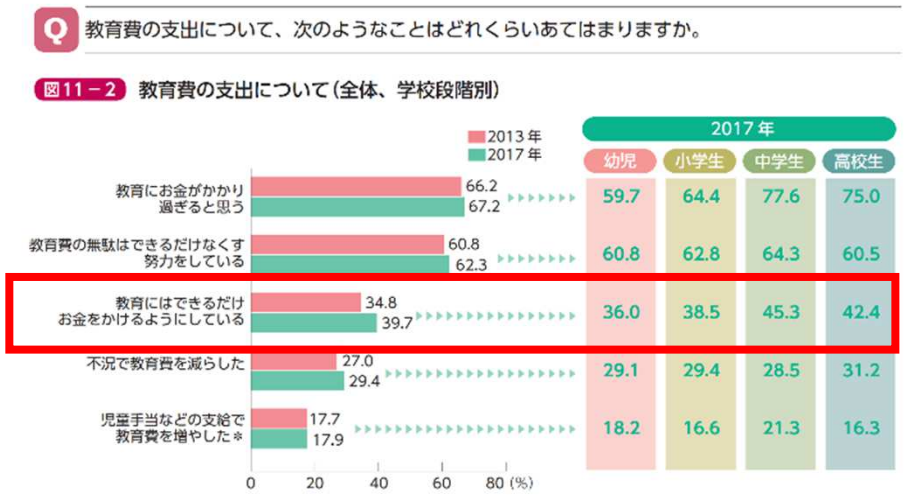
不安定な時世で
唯一のプラスポイント

## 疑問に興味を持ち、自ら調査する姿勢

ベネッセ教育総合研究所「子どもの生活と学びに関する親子調査2021」　https://berd.benesse.jp/up_images/research/oyako_tyosa_2021.pdf

# ターゲット

## 保護者の教育費を支出する意欲も上昇傾向




旅行を「自由研究」として
提案することで
保護者がお金を出しやすい

## 教育費に支出をする世の中になっている！

ベネッセ教育総合研究所「学校外教育活動に関する調査2017」　https://berd.benesse.jp/up_images/research/2017_Gakko_gai_tyosa_web.pdf

# ターゲット

## 学習指導要領では、小学4年生から地域に関する学習が始まる

| 学年 | 内容構成 |
|---|---|
| 小学4年生 | 都道府県の様子 |
| | 人々の健康や生活環境を支える事業 |
| | 自然災害から人々を守る活動 |
| | 県内の伝統や文化、先人の働き |
| | 県内の特色ある地域の様子 |
| 小学5年生 | 我が国の国土の様子と国民生活 |
| | 我が国の農業や水産業における食料生産 |
| | 我が国の工業生産 |
| | 我が国の産業と情報の関わり |
| | 我が国の国土の自然環境と国民生活の関わり |
| 小学6年生 | 我が国の政治の働き |
| | 我が国の歴史上の主な事象 |
| | グローバル化する世界と日本の役割 |

以上の理由から、ターゲットは・・・

**小学4年生の子どもがいる家庭**

平成29年文部科学省「【社会編】小学校学習指導要領解説」 https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/__icsFiles/afieldfile/2019/03/18/1387017_003.pdf

震災を知らない世代に

どのように震災を伝えるのか？

重要

# 震災を知らない世代への効果的な伝承

## ― 文部科学省による防災教育の指針 ―

### 小学校段階における防災教育の目標

日常生活の様々な場面で発生する災害の危険を理解し、安全な行動ができるようにするとともに、他の人々の安全にも気配りできる児童

### 防災教育の方法について

防災について生涯に渡って学んでいけるようにするためには、自ら問いかけて課題を発見し、調べ、結果をまとめ、発表し、その上で、教員や生徒同士の評価を経て調べなおす等の学校内外の人々のコミュニケーションを取ってゆくという能動的学習が必要であり、今後そのような取組が広がっていくことが重要である。

文部科学省　「学校防災のための参考資料「生きる力」を育む防災教育の展開」 https://anzenkyouiku.mext.go.jp/mextshiryou/data/saigai03.pdf
文部科学省　「現在の防災教育における課題」https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/kaihatu/006/shiryo/attach/1367196.htm

つまり、小学生には

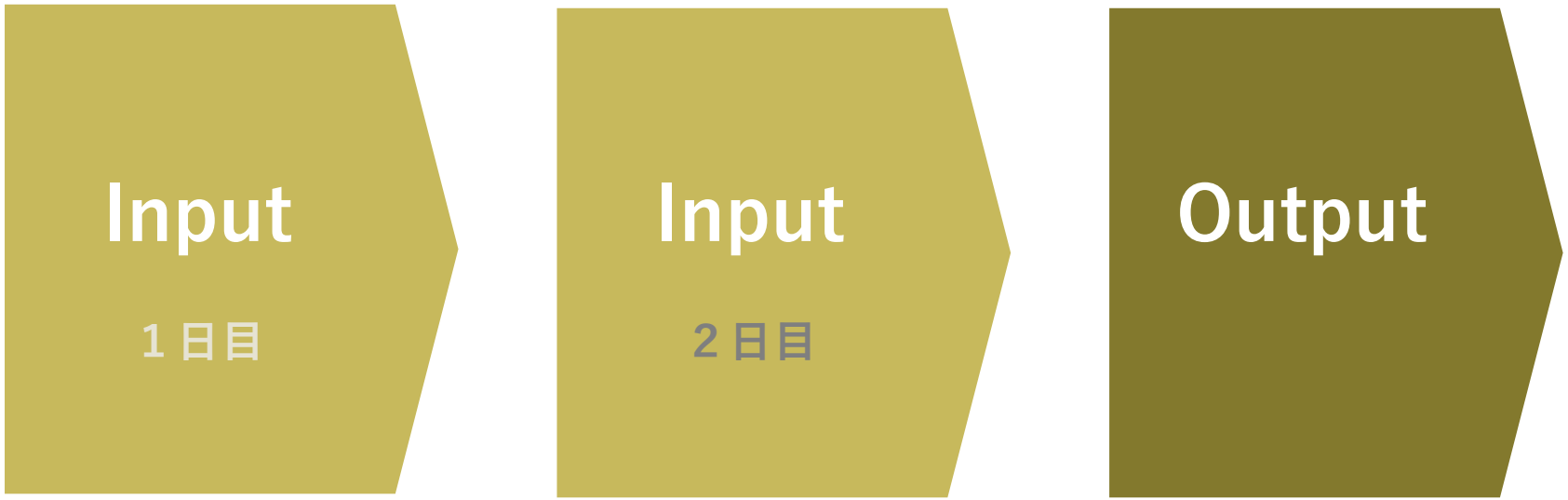
そのまま震災の記憶を伝えるのではなく

- **「自然」には恩恵と災害の二面性があること**
- **家庭や学校などの身近なところに活かせる教訓**　など

**楽しさや面白さ、自分の興味に繋がるような伝え方が理想である**

# プラン概要

- 小学４～６年生に「夏の自由研究」を通して
  楢葉町と広野町を楽しんでもらう
- 3年間続けて来訪し完成させるテーマを用意
- 子どもを通じて2つの町をつなげる


Input
1日目
Input
2日目
Output

# プランに協力していただける町の方々

キーパーソン　協力了承済み

## in 楢葉町

一般社団法人ならはみらい
移住促進係　森様

みんなの交流館「ならはCANvas」で
まちづくりや移住促進の活動を行う。
希望によって楢葉町内のツアー添乗員
もしている。

## in 広野町

合同会社ちゃのまプロジェクト
代表　青木様

多世代交流スペース「ぷらっとあっと」
の運営やパソコン教室の先生を務める。
ぷらっとあっとに来る子どもや学生を
相手に広野町のツアー、川遊び、山遊び
をすることも。

それぞれの町の「自由研究ツアー隊長」として同行していただくとともに、
町の人しか知らない遊び方や楽しみ方をレクチャーしていただく

# プランに協力していただける町の方々

**in 楢葉町**

震災後10年を経て
ついに解禁された
アユ・サケ釣りの
漁業協同組合

**in 福島県**

子どもの興味を
どこまでも
探求してくれる
「教える」プロ

**in 広野町**

日本唯一の農法で
米を作る農家

Coming Soon…

4年生

のテーマは、

# 自然のおもしろさとこわさ

# 流れ・ポイント

自然のおもしろさ → 自然のこわさ → 自然から学んだこと

1. 特徴である「山・海・川が近いこと」を活用し、
大自然を満喫してもらう

2. 「自然」というテーマで、
震災など自然災害の怖さをわかりやすく伝える

Input

1日目

in 広野町

# 自然を思いっきり楽しもう！

川遊びも山遊びも楽しめるのが広野町

川や山にいる生き物をたくさん見つけよう

自然のおもしろさ

浅見川

## 知らない生き物を見つけたときは
## お兄さんに聞いてみよう

多世代交流スペース「ぷらっとあっと」
青木様

協力了承済み

Input

２日目

in 楢葉町

# 自然が持っている力を知ろう

楢葉町を自転車で回って、津波の力の大きさを知ろう

自然のこわさ

楢葉町の堤防

## 震災について気になったことは先生に聞いてみよう

福島大学地域未来デザインセンター
相双地域支援サテライト長
特任教授　仲井様

協力了承済み

# Output

## ワークシートにまとめよう

自然から学んだこと

- 見つけた生き物
- 津波（震災）について
- 普段からできる防災の取り組み

例：天気が悪いときは水辺に近づかない
自宅近くの避難場所を知っておく

5年生

のテーマは、

# ならは町とひろの町で働く人

# 流れ・ポイント

お米を作る人 → アユをとる人 → 仕事体験を終えて

1. 農家・漁協の方々にそれぞれの仕事体験をさせていただく

2. ただ作業をこなすのではなく、
少しの工夫にも興味を持って取り組む

Input

1日目

in 広野町

# 農家の仕事をやってみよう

新妻有機農園で農業体験をさせてもらおう

お米がどのように作られるのかを知ろう

仕事で気をつけていることや、
楽しく感じるときはどんなときか聞いてみよう

お米を作る人

日本唯一のアヒル農法

新妻有機農園のお父さん

協力了承済み

Input

２日目

in 楢葉町

# 遊漁者の仕事をやってみよう

木戸川漁業組合で仕事体験をさせてもらおう

アユやサケがどのように育つのかを知ろう

アユをとる人

木戸川漁業組合　鈴木様

協力了承済み

イクラの加工

地元の子どもには漁業の大変さや面白さを話している。
アユの放流や漁を含めて体験してほしい。
危険性を交えながら川の遊び方も力を入れて教えている。

# Output

## ２つの仕事を新聞にまとめよう

仕事体験を終えて

- インタビュー内容
- 作っている食べ物について
- 新聞をまとめてわかったこと

6年生

のテーマは、

# この町は「何のまち」？

# 流れ・ポイント

広野町ツアー！ → 楢葉町ツアー！ → 町を紹介しよう

1. 町のツアーを通して「町の見方」をアップデートさせる

2. 4・5年生で身に付けたことを盛り込んだうえで町を紹介する

Input

1日目

in 広野町

# 広野の町をもっと探検しよう

広野町ツアー！

二ツ沼総合公園

ぷらっとあっと

SUZUKI天体観測所

多世代交流スペース「ぷらっとあっと」には町の子どもがたくさん出入りしているため、一緒に遊ぶこともできる！

ひろのオリーブ村　「SUZUKI天体観測所」　Facebook ID : hirono.olive　https://www.facebook.com/hirono.olive

Input

２日目

in 楢葉町

# 楢葉の町をもっと探検しよう

楢葉町ツアー！

Jヴィレッジ

天神岬公園

ならはCANvas

「ならはCANvas」にも町の子どもが遊びに来るほか、
定期的に町についてのセミナーを行っているため、情報収集に最適！

Jヴィレッジ　https://j-village.jp/stadium/

Output

# パンフレットで町を紹介しよう

町を紹介しよう

- お気に入りの景色を載せる
- 紹介文は主観的＆自分の言葉で
- 4・5年生で学んだことを
  盛り込むことで、学習を活かす

Check!

# パンフレット作成の重要性

- 自由研究の成果として学校で発表することで、来訪のチャンスを広げられる
- 「町を教わる側」が「町を教える側」の立場として行動するようになる

**自分なりに、ひとつの町を解釈できる**

3年間来訪し続け、はじめて完成するテーマ

# 町の読解力を身に付ける

移動手段
既存レンタサイクルの活用
JR広野駅
現在楢葉町に展開中の
レンタサイクル範囲を
広野町まで拡大
予算や運営団体の関係でまだ導入することはできていないが、
あったら便利だと思っている。楢葉の力を借りて広野にも展開したい。
広野町役場職員の方

# 運営主体

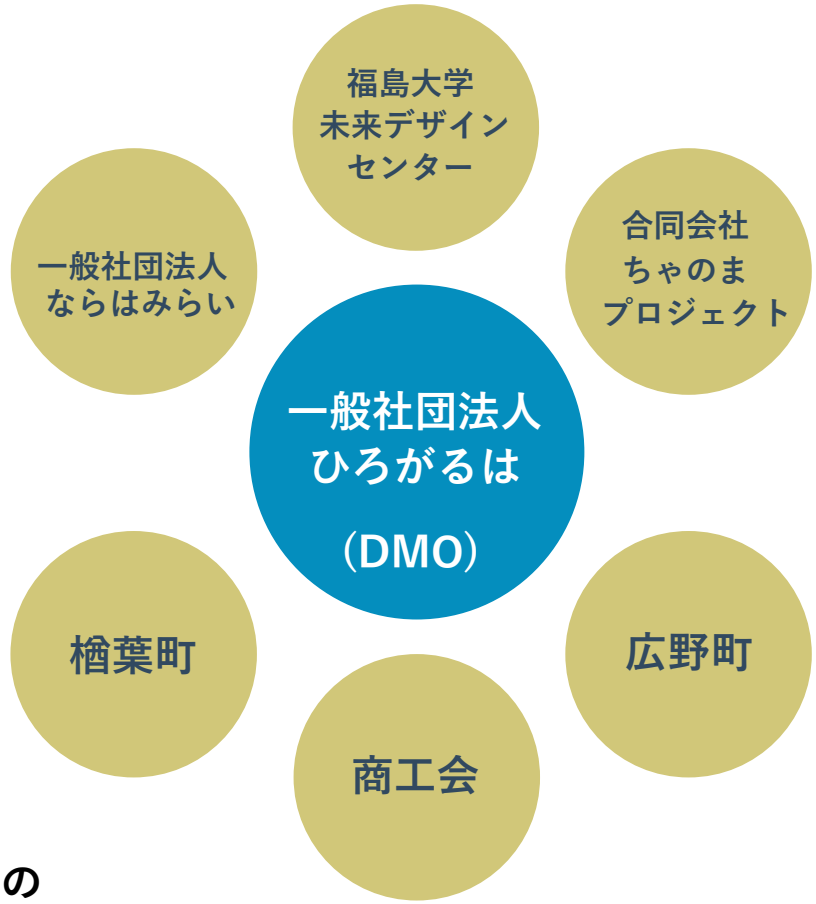
## DMO（観光地域づくり法人）

楢葉町・広野町を中心とした
観光支援事業を行うため、

「地域連携DMO」として候補登録。

▼

その後、観光地域づくり法人として登録！




令和2年4月に「観光地域づくり法人の
登録制度に関するガイドライン」が改正

2022年5月16日更新　観光庁　「観光地域づくり法人の登録について」 https://www.mlit.go.jp/kankocho/page04_000049.html

# 広告・宣伝方法

**教育委員会の広報** を活用

例：東京都教育委員会

「自然学習・防災教育・地域学習」のコンテンツとして

教育委員会の広報に掲載してもらう

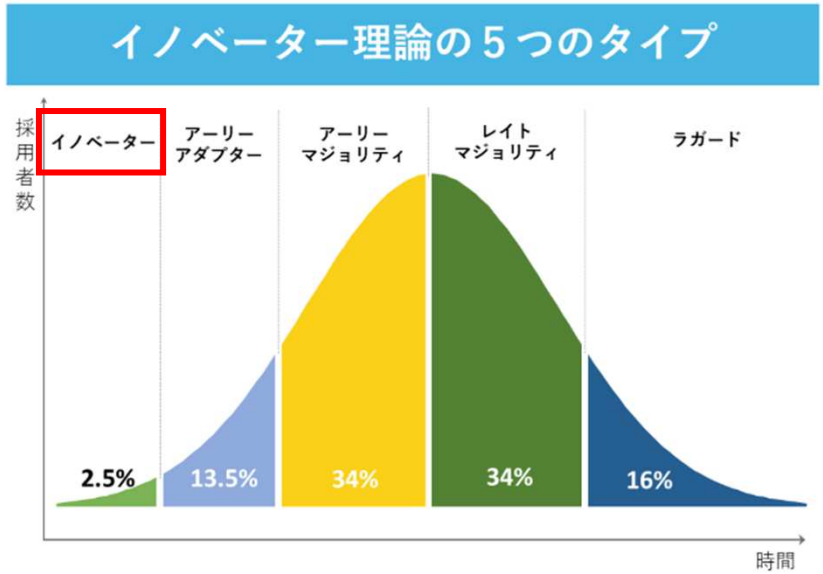
▼

**学校を通じて当プランの存在が伝わる！**

東京都教育委員会　https://www.kyoiku.metro.tokyo.lg.jp/

# 広告・宣伝方法

**イノベーター理論** による認知の広がり




**イノベーター理論とは？**

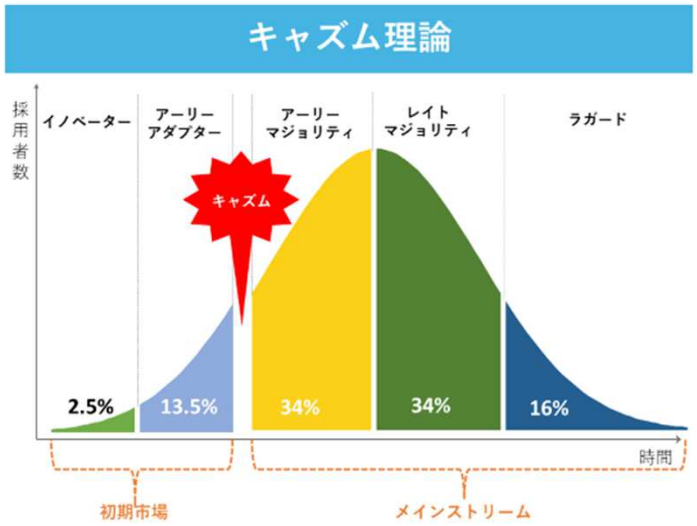
1962年にアメリカ・スタンフォード大学の社会学者 エベレット・M・ロジャース教授によって提唱された、新たな製品（商品・サービス）などの市場における普及率を示すマーケティング理論。

**情報感度が高く、当プランの価値観に興味を持った層をイノベーター（最も早く製品を採用する層）とする**

東大IPC「イノベーター理論をわかりやすく解説！【事例あり】」 https://www.utokyo-ipc.co.jp/column/innovation-theory/

# 広告・宣伝方法

**キャズム** をどうする？




**キャズムとは？**

初期市場とメインストリーム市場の間にある溝のこと。初期市場の消費者は「新しさ」を重視するのに対して、メインストリーム市場の消費者は「信頼・安心感」を重視する傾向にあるからだといわれている。

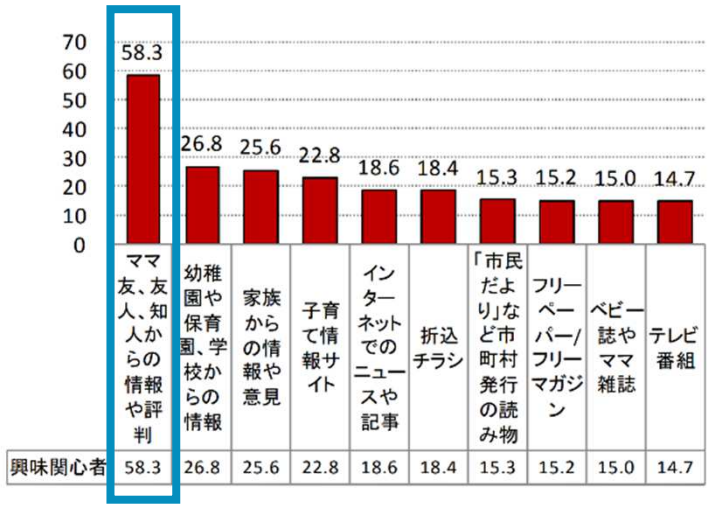
**当プランを普及させるには「キャズム」を越える必要がある**

東大IPC「イノベーター理論をわかりやすく解説！【事例あり】」 https://www.utokyo-ipc.co.jp/column/innovation-theory/

# 広告・宣伝方法

**キャズム** を **口コミ** で越える

■参考にする情報源ー教育・習い事



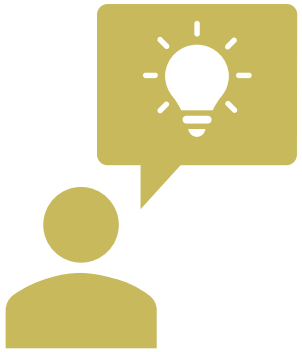

保護者はママ友などからの口コミを重視する傾向が非常に高く、初期市場の保護者の口コミがメインストリーム市場の保護者に影響する可能性は高い

## 口コミの力によってキャズムを越え、当プランを周知させる

博報堂こそだて家族研究所　調査レポートvol.5「ママの欲しい情報と情報機器」編 https://www.hakuhodo.co.jp/uploads/2014/11/20141113.pdf

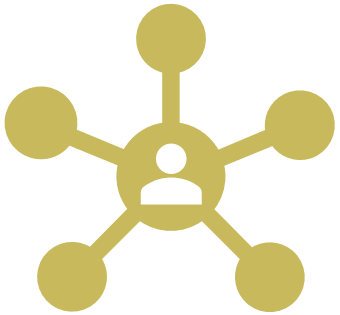
# プランの
# 効果と実用性

# 子どもへの効果



町の磨くべきところ
を見つけられる

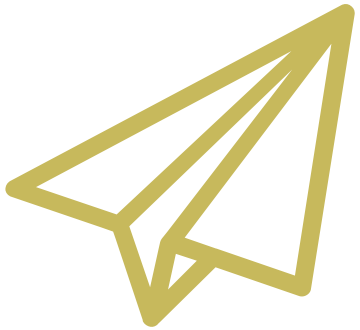
震災について学び、
防災への意識が高まる



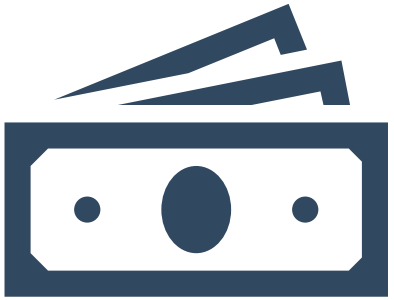
遊び方のバリエーション
を増やすことができる

# 町の人への効果

子どもに教えることで、
町をさらに良くしようと
努力するようになる



震災を若い世代に
語り継ぐことができる



直接的な消費によって
町の経済が潤う

Check!

# 「福興」の実現

## 私たちの考える「ふっこう」とは、人と町それぞれが「伸びること」

「福興」という新しいゴールの提案

子どもが自由研究という題材を
使って3年間学び続けることで、
町への興味の持ち方や
読み解き方を身に着けられる

プランによって新たな人の流れを
作り出し、かかわりが薄かった町
同士をつなげることで、
未曾有の「伸びしろ」を作り出す

# 当プランの実用性

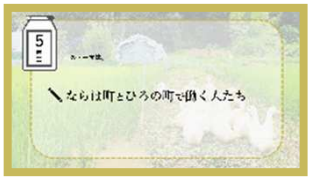
## 学習指導要領に対応しているため、学校で習った内容の発展が望める

| 学年 | 内容構成 |
|---|---|
| 小学4年生 | 都道府県の様子 |
| | 人々の健康や生活環境を支える事業 |
| | 自然災害から人々を守る活動 |
| | 県内の伝統や文化、先人の働き |
| | 県内の特色ある地域の様子 |
| 小学5年生 | 我が国の国土の様子と国民生活 |
| | 我が国の農業や水産業における食料生産 |
| | 我が国の工業生産 |
| | 我が国の産業と情報の関わり |
| | 我が国の国土の自然環境と国民生活の関わり |
| 小学6年生 | 我が国の政治の働き |
| | 我が国の歴史上の主な事象 |
| | グローバル化する世界と日本の役割 |

「自然のおもしろさとこわさ」

**自然災害を実感し、**
**対応する力を身に付ける**

「ならは町とひろの町で働く人たち」




**産業への造詣を深め、**
**「食」をさらに理解する**

「この町は『何のまち』？」

**より広い視点を持って、**
**地域や文化を理解する**

平成29年文部科学省「【社会編】小学校学習指導要領解説」 https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/__icsFiles/afieldfile/2019/03/18/1387017_003.pdf

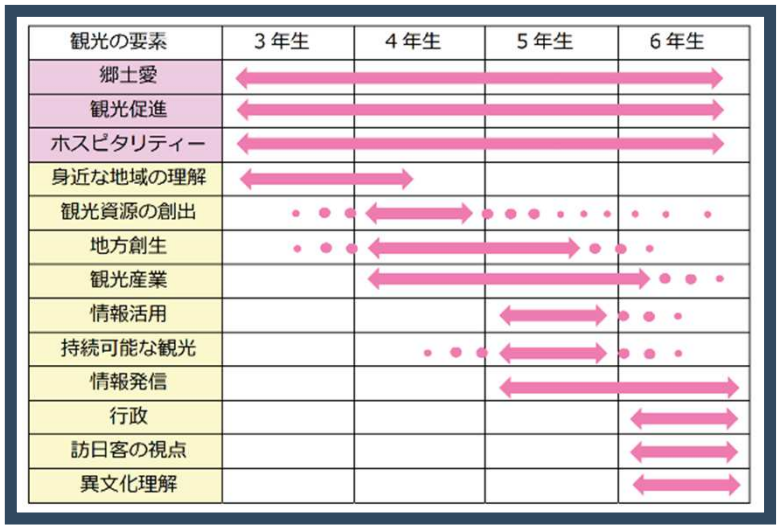
# 当プランの実用性

## 小学生への観光教育の指針に沿った流れを展開

### 本プラン3年間の流れ

自然を知る ▶ 産業を知る ▶ 町を様々な視点で見る

### 観光庁の観光教育プログラム案




国土交通省・観光庁　令和元年度　改定学習指導要領の内容をふまえた観光教育のプログラム作成等の業務　報告書　「『観光教育の内容と社会科教育の内容との対応』の検討　p.24②－2」
https://www.mlit.go.jp/kankocho/shisaku/sangyou/content/001470891.pdf

# 経済効果

## 学校数の多い首都圏で試算

| | | |
|---|---|---|
| 首都圏の小学4年生の人数 … | | 291,667(人) |
| ２つの町が一度の夏休みに受け入れられる子どもの人数… | | 100(人) |
| ※　当プランに反応して来訪する子どもの割合… | | 0.034% |
| 夏休みに当プランを通して町に来訪する子どもの人数… | | ＝ 100(人) |
| 両親を含めた、町に来訪する観光客の総数… | 100 × 3 | ＝ 300(人) |

令和2年　総務省統計局　「小・中学校の学年別児童数と生徒数」 https://www.stat.go.jp/data/nihon/25.html

# 経済効果

1人あたりの2日間消費額予想

| 消費項目 | 消費金額(1人) |
|---|---|
| 宿泊費 | 4,000円 |
| 飲食費 | 4,000円 |
| レンタサイクル | 3,000円 |
| 雑費 | 1,000円 |

× 300（人）

＝ 3,600,000(円)

直接効果

この消費によって発生する波及効果 ＝ 5,987,261(円)

波及効果

持続性に優れる当プランが10年間続いた場合の効果（割引現在価値込み）

$$=(3{,}600{,}000 + 5{,}987{,}261) + 9{,}587261 \div 1.04 + 9{,}587{,}261 \times (1.04)^2 + \cdots + 9{,}587{,}261 \times (1.04)^{10}$$

首都圏の小学4年生の
たった0.034%で

＝ 74,135,844(円)

経済波及効果

**10年で約7500万円の経済波及効果が生まれる**

総務省　「経済波及効果を計算してみましょう」 https://www.soumu.go.jp/toukei_toukatsu/data/io/hakyu.htm

# まとめ

新規性

## 教育旅行の個人化 & 新しい「ふっこう」の形

・現在のホープツーリズムとの差別化

・町や個人単位に利益が還元される仕組み

・3年かけて完成させる長期来訪の仕組み

・「震災」を子どもへ効果的に伝える

・ 学年に合わせたアウトプットの形

・「観光教育」の理想を満たせるプラン

「ある程度復旧した町」にスポットを当てることによる、
「震災にとらわれすぎない観光プラン」

# 実現可能性

福島大学地域未来デザインセンター仲井様より、当プランへの全体的なご賛同をいただいた。また、「小さい子どもの家庭は放射能を気にする傾向があるので注意が必要」とのアドバイスもいただいた。

一般社団法人ならはみらい森様より、当プランへの概ねのご賛同をいただいた。また、パンフレット内マップの作り方についてアドバイスをいただいた。

新妻有機農園のお父さんより、プラン内の農業体験について「協力できる」との意見をいただいた。

木戸川漁業組合鈴木様より、プラン内のアユの遊漁者体験について「協力できる」との意見をいただいた。また、サケの漁師体験については「開始までに時間を要するが、稚魚の放流から行うこともできる」との今後の発展についての意見もいただいた。

合同会社ちゃのまプロジェクト青木様より、プラン内のツアーに「協力する」との強い申し出をいただいた。

# ご協力いただいた皆様

ならはCANvas

福島県庁

多世代交流スペース
ぷらっとあっと

広野町役場

新妻有機農園

福島大学
地域未来デザインセンター

# ご協力いただいた皆様

福島県観光交流局局長　市村様

福島学院大学地域連携センター事務長　角田様

福島大学地域未来デザインセンター特任教授　仲井様

広野町役場産業振興課　根本様

広野町役場復興企画課　横田様

広野町役場暮らし相談窓口　大森様

一般社団法人ならはみらい　森様

合同会社ちゃのまプロジェクト代表　青木様

多世代交流スペースぷらっとあっと館長　磯辺様

新妻有機農園　新妻様ご夫妻

木戸川漁業組合　鈴木様

居酒屋「元気百倍」　鈴木様

きづな食堂　ご夫妻

お昼ごはん柏屋　お姉さん

他

## ありがとうございました！

# プラン全体像

従来の教育旅行が抱える課題

新しい「ふっこう」の必要性

## 夏の自由研究を観光の目的に

従来の「教育旅行」では難しかった、
町や個人単位への利益還元

「伸びる」という、新たな意味を持った
「福興」の実現

**観光客が世界中から楢葉町、広野町を選択して来訪するようになる**